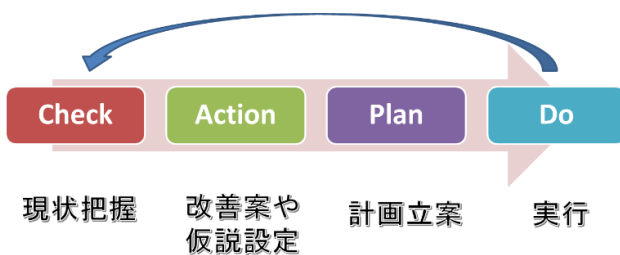


## 前高のSSH始動！課題研究と講演会

本校は、令和元年度から令和5年度までの5年間、文部科学省から「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」に指定されました。SSHは理数教育に重点を置いたカリキュラム開発、大学や研究機関等と連携した課題研究の推進、体験的・問題解決的な学習等を通じて、将来の国際的な科学技術人材を育成しようとするものです。

### 計画の前に現状把握を



前高で取り組む課題研究では、従来耳にすることの多かったPDCAサイクルを見直した「CAPD<sub>o</sub>（キャップドゥ）サイクル」を採用しています。これは、十分な「現状把握」こそまず重要であり、その上で、「仮説設定」「計画立案」し、「実行」に移るべきだ、という考えのものです。「現状把握」の価値をより高く設定することで、課題研究・改善活動をより効果的に進められる、と考えています。

### イノベータから直に学ぶ

さて、そのためには「分析力」「思考力」の養成が重要になります。そこで求められる考え方、そして課題研究の意義を学ぶため、4/24(水)に「第1回イノベータ講演会」として、共愛学園前橋国際大学学長 大森昭生先生をお招きし、『答えがないから面白い ―課題研究の意義と進め方―』と銘打って、お話を聞かせていただきました。

講演では「Society 5.0」「人生100年時代」等のキーワードが並び、これからの「予測困難な時代」を牽引すべき前高生に対し、「イノベーションを創出するグローバルな人材」になってほしい、との期待が投げかけられました。また、新たな学力・能

力の評価へと社会がシフトする中で、「課題研究」的な学習が重要になるとも教えていただきました。

そして、最後には「研究は答えがないから面白い。極端に言えば、たとえ研究自体は失敗に終わったとしても、そのプロセスを通して、求められる力が身に付いたのならば成功。だから、とことんやってみよう！」とのエールで、前高生の意欲に火を点けていただきました。



### 講演会を終えた前高生の声

- ・自分たち一人一人がこれからの世界を変えられる。そういう可能性を実感することが出来た。(S君)
- ・情報収集の重要性を通して、現在我々にとって課題の一つである、ネットリテラシーや情報の吟味という点も学べるのではと感じた。(K君)
- ・ものを多方向から見るような視野、多面的な視点が必要。それには授業や生活の中から主体的に考え「気付く力」を持つことが大切だと感じた。(R君)